

令和3年第12回教育委員会会議

令和3年9月27日

午後 1時30分 開会

1 開会宣言

○廣瀬教育長 それでは、ただいまから令和3年第12回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から御報告をお願いします。

○杉本教育総務課長 本日は全員出席でございます。欠席者はありません。

○廣瀬教育長 傍聴者はお見えですか。

○教育総務課 傍聴者はありません。

2 会議録署名者の決定

○廣瀬教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、伊藤委員と鈴木委員でお願いをしたいと思います。御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議がないようですから、提案どおり決定をいたします。

3 議事

○廣瀬教育長 これより議事に入ります。

本日より皆様に配付いたしましたタブレット端末を活用して教育委員会会議を行っていかうと思います。お手元のタブレットに議案関係資料のデータを事前送信いたしました。当面の間、操作も習熟いただくまでは紙資料の配付を同時にさせていただいておりますので、使いやすいほうを使っていただく、または併用していただきたいと思いますのでお願いいたします。

さて、本日の議事は報告事項2件ですが、報告事項の令和3年8月定例月議会補正予算(追加上程)については、今後市議会等で審議、検討される事項であるため、非公開で審

議する必要があると考えますが、委員の皆さん、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議ないようですから、後ほど非公開にて審議をいたします。

(1) 報告

1 市立小中学校における新型コロナウイルス感染状況及び2学期の対応等について

○廣瀬教育長 それでは、報告1つ目です。

市立小中学校における新型コロナウイルス感染状況及び2学期の対応等についてを議題といたします。

紙資料でページ番号を案内した上で内容の説明を各担当からお願いをいたします。

○稲垣学校教育課長 それでは、どうぞよろしくお願ひいたします。

タブレット番号については15分の10になろうかと思ひます。こちらをお開けください。

市立小中学校における新型コロナウイルス感染状況及び2学期の対応等についてというところでございます。

まずは、(1)に書かせていただきましたが、市内の感染状況、小中学生の感染状況については、この表に示させていただいたとおり、今までにない感染爆発といひますか、感染状況がこの夏休み、ことに、8月15日、お盆過ぎあたりから本当に爆発的に増えたというふうな感じでございます。その数字を見ていただければ一目瞭然といひますか、合計欄のところを見ていただきますと、令和2年度に1年間で17人だったところ、8月のところを見ていただきますと、8月一か月間だけで144人という、今までに聞いたことのないような感染状況がありました。

そこで、8月27日には、三重県で発出された緊急事態宣言が9月30日まで延長され、深刻な状況が続いてまいりました。現時点で、まだ緊急事態宣言は明けてはいないわけですが、9月30日をもって緊急事態宣言の一旦期間は終了するわけですが、この表を見ていただきますと、9月の合計人数は40人となっておりますが、9月20日から今まで、この1週間においては、児童生徒については1名が感染をしているというふうなことでございます。数字的に見ましても一定の減少傾向にあるなと思ひているところでございます。

さて、その緊急事態宣言に伴う子どもたちの学びの保障に向けた対応、人流を止めると

いうふうなことにおいては、緊急事態宣言下において各家庭、各個人において十分な感染症対策をやっているところでございますが、一方で、学校は、8月30日からは新学期というふうなことを予定してございました。ところが、緊急事態宣言もあって、学校の学びの保障に向けた対応を考えなければいけないほどになってきました。

そこで、四日市市として取らせていただいたのが、下線をつけて示してあったとおりの時系列になっております。まず、8月30日、31日は個別登校、どちらか1日をもって登校するという分散登校、しかも集団登校ではなくて個別で登校するというふうな、あくまでも感染症対策をメインとした登校を促すようにしました。

9月1日からは、登校ではなくて全校一斉に自宅等におけるオンライン学習を実施しました。そして、そのオンライン学習を一定期間やった上で、ここでは一定の減少も見られましたので、9月16、17日は分散登校というふうな形を取りました。ここでは、小学校においては集団登校も再開をしておりますが、どちらか1日において登校するというふうな段階的な登校をやってまいりました。

そして、先週、9月21日からは通常登校とはいうものの、9月21日からは午前中の授業、そしてお昼御飯、給食も実施した上で下校するというふうな格好です。緊急事態宣言下においては、部活動についてはマスクをはめないというふうな活動も余儀なくされるのかなということで、9月30日までは部活動は行いませんという対応をまいりました。今週、今日9月27日からは通常どおりの学校活動を再開してございます。小学校から中学校までが6限授業、ただ、部活動は行わないという対応をしておりますというのが今の状態でございます。

なお、当面の間、登校に不安がある児童生徒については、登校を控えることもできます。この場合については、欠席とせず出席停止というふうなことで扱いをしております。

以上が私から御説明させていただきました全ての流れについてでございます。ここからは、各課におきまして、オンライン学習の様子、状況を報告させていただきます。よろしく申し上げます。

○**小林指導課長** 指導課の小林です。よろしく申し上げます。

私からは、15分の11、15分の12、15分の13ということで、オンライン学習の状況についてお伝えさせていただきます。

まず、15分の11ページですが、オンライン学習を行うに当たって、学校へはこんな形で5限まで行ってくださいと。この中にはオフライン、オンライン、様々あると思いま

すが、これについては学校にお任せします。ただ、1人1台タブレットでできるだけオンライン学習を進めてくださいというような形でスタートしました。

ただ、9月1日から3日の間は、なかなか全員につなげられないというような状況がございました。その中で支援課からもいろんな対策についてそれぞれの学校に支援をしてもらう中で、次の月曜日からにつきましては、大体90%以上がつながるという中でオンライン学習を進めてまいりました。

15分の12、15分の13について説明をさせていただきます。

そして、オンライン学習の様子ですが、まずは、小学校からお伝えさせていただきます。そこに4つ写真がありますが、まず、左下から説明させていただきますと、最初は、それぞれ複数の教員で役割分担をして、オンラインにつながる、つながらないも含めてオンライン学習に入れない子の支援も必要ですので、電話がかかってきて、その対応を行ったり、またはどうしても入れない場合は学校へ来なさいというようなことで学校で違うクラスでオンライン学習を進めるような状況でした。

そして、時間が進むにつれて、日にちが進むにつれて、少人数を活用した授業、ブレイクアウトルーム、ズームで行った場合、そのように呼ぶんですが、私も7月ぐらいでこんなことができるというのを研修で知ったわけなんですけど、そういうことも学校によってはどんどん進められるというような状況になっております。ですので、先生方も、どうしてもしなければならない中で、先生のオンラインに対する技術もアップすると同時に、子どもたちも徐々に慣れていくというような形で1週間が過ぎていきました。

そういう中で体育科の授業を持つところは、やっぱり5教科の授業だけですと時間的に目が疲れてくるというようなこともあるということで、体育科の授業で体を動かす。その中では、運動会の表現、それからラジオ体操なんかもやってみるというので、私も小山田小学校の見学に行かせていただきまして、そのときには朝からラジオ体操をして、先生がパソコンの前でラジオ体操する。そして、ある画面ではラジオ体操の画像を流しながら行う。そんな授業が行われておりました。

また、画面の共有ということで、先生が全てしゃべるだけでなく、パワーポイントで作られたものを見せながら指導したり、先生が撮ってきた写真を共有する中で授業が進められるようなところもありました。

あと、ずっと画面を出しっ放しですと、ビデオ機能をオンにずっとしておきますと、なかなかつながりにくいという状況もありまして、ビデオ機能はオフにするとか、ただ、声

が行き来する中で、手を挙げたら、その画像をオンにしてしゃべるとか、学校によってはいろんな工夫がされているというような状況でした。ですので、いろんな手を挙げる機能とか、子どもたちはどんどんと使えるようになってきて、先生の質問に対してチャットやそういうようなことで反応を示すというようなことも徐々に行われるようになってきました。ただ、やっぱり低学年のお子さんに関しては、保護者がついておるとか、なかなか最初からスムーズにいくというようなところは難しく、慣れることによって保護者の支援も得ながらちょっとずつ進めていくというので、漢字の書き順なんかもずっと出てきますので、逆にそれは見やすかったりするというような御意見も先生からはいただきました。

それから、オンラインでマスクを外すような中で顔が見れるので、子どもの表情がよく分かったとか、回数を重ねることで先生たちのICTスキルが上達してきているというような声もありました。

続いて、中学校を御覧ください。

これは小学校にもあるんですが、英語の授業なんですが、左上の15分の13です。黒板を使つての指導ということで、中学校はこちらも多く見られました。こちらは、まずYEFとのTTの授業も、先生が黒板で、ただしゃべって授業を進めるだけではなくて、いろんな先生がそこへ入る中で授業の高まりを見ることができました。

そして、中学校は1時間に1教科、3クラスありましたら、3クラスが1教科、全員数学ということで、ほかの先生がその支援に入るといったような学校が多く見られました。ですので、そうなるほかの先生の授業を見ますので、それ、どうやってやるのとか、やっぱりできる先生のICTスキルを自分のものとして使う、そういうような姿も見られました。

その右を見ますと、理科の授業ですと、先ほども画面の共有等の話もさせていただきましたが、手元で実験をしっかりと見せて、そして、こういうような実験結果が出るというのを画像の前で子どもたちと予想も含めて授業を進めるというような場面も見られました。

また左下になりますが、同時双方向による指導ということで、これはある学校の朝学科と始業式の部分を写したものです。子どもたちの顔が幾つか見えますが、左上にあるのは、これは校長先生の画像ですね。校長先生が出て話を進めるというような双方向によるコミュニケーション、そして、校長先生からのお話というような場面も見られました。

また、これは全ての学校ではないんですが、オンライン動画をホームページに撮りだめして、そこにIDとパスワードでホームページにログインすることで、それぞれつなぐこ

とができなかった子どもたちも含めて、その画面に入って授業をもう一度見る、そういうような方法を取っている学校もありました。これは全部で何校されたかというのは、こちらではまだ調査はしてないんですけども、徐々にある学校がこの機能を使うことによって、ほかの学校でもこれをまねして授業の風景を撮って、撮りだめして、それをもう一回確認できるというような方法を取ることも見られました。

それで、不登校傾向の生徒、特に中学校なんですけど、オンライン学習になることで、それぞれお声をかけて入ることができて、今まで2年間なかなか顔を見ることができなかった子ども、オンライン学習には入ってきた。むしろ、そういう子たちはオンライン学習で、ゲームにたけておったりしますので、これについてはハードルが低い中で授業を受けることができた。そして、コロナ不安で休んでいた子ども、この機会、これは小学校なんですけど、授業に参加することができたというような話も聞くことができました。

それから、先ほど双方向の授業というようなことをお伝えさせていただきましたが、顔を見ながら授業を進めることができるので、一斉授業で見れないような部分も、双方向、普通の授業ではあるんですけど、顔が目前にあるということで、それを複数の先生で確認しながら授業を進めると。また、子どもたちは先生方の様子で、右下にあるところなんですけど、手元を子どもたちに映させて、ノートを書いている様子とか、その内容を確認しながら授業ということで、これは、授業を進めるに当たって、実際に子どもたちがどのようなものができているのかというようなことを確認する中で授業を進めるという学校もございました。中学校に関しましても、先生方がお互いに授業を見合うような機会の中で、かなりスキルがアップしたというような話が聞かれています。

私からはオンライン授業の様子ということで、以上でございます。

○稲垣学校教育課長 再度、学校教育課より説明させていただきます。

15分の14をお開きください。

ここには、参考までにですが、①で近隣市町の対応状況についてお示しさせていただきます。ここは、各市町によって対応もそれぞれなわけなんですけれども、これはそれぞれの市町におけるいわゆる感染状況が十分に考えられた上での対応でございますので、決して状況について優劣をつけるようなものではございません。それぞれの状況があつての判断というふうなことになるかと思います。

ここには、四日市市においてはというふうなことでもないんですけども、感染状況等、それと夏休みにタブレットを持ち帰らせて、ある程度のスキルが身につけているというふ

うな状況。それと、1学期、また、昨年度からタブレットを利用した授業の状況というふうなこと、そして、それに伴う教員の、先ほども言ってもらっていましたが、ICTスキル、指導法の指導技術の習熟というふうなことを全て加味した上で、こういうふうな対応がふさわしいというふうに考えてなっておるものでございます。参考までに他市町の状況を示させて御覧いただいております。

②については、同様に給食の開始日を示させていただいております。

(3) 次の今後の教育活動についてでございますが、また、これも感染状況により変化することはあると思いますが、ひとまず今現時点で学校及び保護者やお子さんたちに、以下の内容でお示しをさせていただいて、さらなる感染症予防については徹底していただくようにお示ししてあることでございます。ことに、体調不良が見られる子ども及び教職員については、とにかく登校を控えてもらうような指示をさせていただいております。また、登校後に発熱であったりとか体調不良があった場合は、いち早く帰宅をさせ、そして受診を勧めるというふうな対応でやっております。また登校した、いわゆる元気な子たちについても、空調の適切な使用と換気の徹底、手洗いの実施、密を避けるなどの基本的な感染防止対策というのを改めて学校で見直し、改めて徹底をするというふうなことをお願いしているところでございます。

②はその他の教育活動、先ほど部活動についてお示しさせていただいたところなのでございますが、運動会、体育祭につきましては、9月中は原則中止、10月以降への延期を検討してもらっております。修学旅行につきましては、9月中は原則中止、10月以降への延期を検討。自然教室も同様です。社会見学、遠足についても同様に9月中は原則中止とし、10月以降への延期を検討させていただいて現在進んでいるところでございます。早速に10月に入ったら修学旅行を行うというふうな学校も出てきておりますのでお知りおきください。

ここのところは以上です。

○世古人権・同和教育課長 人権・同和教育課でございます。

15分の15、コロナワクチン差別防止に関わる学校での取組について、簡単に御報告をさせていただきます。

これまでもコロナウイルス感染症に関連した中傷やいじめが起こらないように取組を進めてまいりました。そして、今週からは四日市におきましても12歳から15歳のワクチン接種の受付が始まって、本格的な接種が始まることになりました。他府県において残念

な、ワクチン接種の有無を挙手をさせるような事案もニュース等で報道されておることも鑑みまして、学校におきまして当課が作りました自主教材の部分、もしくはそれぞれの学校の実態に応じたものを使っていただき、ワクチン接種に関わる差別とかいじめが起らないように進めていただいております。

写真は、小学校、中学校の授業の様子でございます。授業が終わった後、小学校6年生なんですけど、早速担任に、「今度ワクチンを打つことになっているけど正直心配なんです」みたいな相談があったと聞いています。家族の人にしっかり気持ちを聞いてもらおうねというような形で担任は返して相談に乗っているらしいですが、子どもたちの気持ちに寄り添って丁寧に指導するように取組をお願いしているところでございます。

私からは以上でございます。

○廣瀬教育長 ありがとうございます。

本当に8月、お盆過ぎあたりから災害級の陽性者の発症ということで、最大が8月28日162人、その前後、8月25日から145人、150、160、160、150というような急増の状況でありましたので、当初、分散登校というふうに考えておりましたけれども、集めるという選択肢はできないと判断して個別にさせていただきました。

それから、先ほど説明があったとおり、タブレットを持ち帰っていることと昨年度も家庭との通信テストもしている。理論上は可能だということで、使うしかないやろうということでオンライン学習を中心とした家庭学習を組んでいこうということで学校には周知しました。いろいろ問題がありましたが、やらないことには始まらないという選択肢を取らせていただきました。

そういった状況の中、あと、近隣市町、特に三重郡3町と桑名市、鈴鹿市とは情報共有しながら、うちはこうやってやるよということも連絡しながら、足並みはそろえたわけではないんですけども、お互い参考にし合って、特にうちだけ止めておっても人の流れって変わらないと思いますので、鈴鹿、四日市、桑名が割と共同歩調も取っていただいたこともありがたかったのかと思います。

市の対策本部からも全国トップクラスの対応が必要だろうというような状況でしたので、思い切ってこういった対応を取らせていただきました。数々問題はあるかと思いますが、いろいろ報告を聞いていただいたところで、忌憚のない御質疑、御意見等をお願いしたいと思います。

○伊藤委員 本当に8月のお盆過ぎから感染者の数の急増で、一体これはどうなるんだろ

うという大きな不安を持って、学校としても大変やろうなというふうに思っていた中でいろいろ取り組んでいただいたと思います。本当にそういう動きを見ながら、実際2学期が始まっている中で、事務局としてはいろんな検討もしてもらったり、一旦こうやろうと思っても、なかなか状況の中で判断が迫られるときもあったと思うんですけども。

今回、ICTを使った活動、特にオンライン学習、これをやっていくということについては、私としては、問題はいろいろ出てきているだろうと思うんですけど、やることでこれを次に生かすということは非常に大事であろうというふうに思うんです。そのために、今回の半月ぐらいのオンライン学習、これまでも、例えば、感染者であるとか濃厚接触者であるとか、そういった子どもたち対象にはやっていたと思うんですが、こういう規模でやるというのは初めてなので、今後、第6波も来るかも分からんという状況では、今回のことをぜひ生かしていきたいというふうに思うんですね。

ただ、自分の想像の中も併せてなんですけど、学習内容の新規効果みたいなものって、子どもたちは結構飛びつくということもあるんですけど、これがやっぱり主になっていったときに、結構厳しくなっていく状況も出てくるのではないかなと。例えば、想像するのに、画面で5時間の授業をやっていくとなったときに、例えば、学校に来ていたら、休み時間というのは友達を何かしたり、いろいろあって、だから、次の時間は頑張れるというようなこともあったりすると思うんですが、それが、家の中というのはなかなかなくて、ある子どもに聞いたら、授業と授業の間ってどうしているのといったら、転がっておるとか、そんなふうな、やっぱり疲れるんかなと思ったりもします。

そういうような単純なことであるとか、学習内容のって、いろいろその辺り、工夫されているので、どんなふうな工夫の中で効果的であったとかということを改めて整理していただきながら、今後に生かしていただきたいなど。

課題になっていることは実は結構出てきているんだろうと思います。その辺りも、今日の報告の中ではいい面もいろいろ書いていただいている、なるほどなと思うことがたくさんあるんですが、初めてのことでですので、その辺りを丁寧にしていただけたらなと思います。

その課題の中で一番自分が聞こえてくるのは、やっぱりつながらない。それから、つながっても不安定であるという、この状態ですね。各学校によってかなり苦労されておたらしいなと思うんです。一部の学校は、直接聞いたこともあるんですが、今後、これを解消していくために補正予算で学校のサーバーの増強であるとか、いろいろ上げていただい

ているんですよ。これで大体解消していくのかどうかというのを、自分はその辺はよく分からないんですけど、ぜひ、この辺りがスムーズにつながっていけるように。まず、この条件がないと、つながっておったわと思うても、また、非常に不安定になって、途中から学校へ行かならんというようなことも中にはあったようで、そういうふうなこと。

これ、学校としても非常に悩ましいから、どうしたらいいんやということで、分かる人もおれば、自分やったらなかなか解決の糸口が分からないので、恐らく教育支援課が相当対応してもらったのではないかなというふうに想像していました。ぜひ、その辺り、環境整備を、今回のことを教訓に生かして進めていただけたらなというふうな感じです。その辺り、また、いろいろ情報で、どういう状況であったかというのを教えていただけたらありがたいです。

それから、先ほどもちらっと出ていましたけど、コロナそのものの、いわゆるワクチンでの差別どうこう、これはこうやってずっと取り組んでいただいているし、本市は情報モラルやリテラシーをきちっと位置づけてやっているのでは思いつつ、例えば、東京の町田市のような、ああいう事例というのは、やっぱりあってはならんことなので、特にチャット機能での書き込み、こんなもので問題なんて、今回やった中でそういうのはなかったんだろうかなというのは、ちょっと気にはなっているんです。ですので、その辺りも何かちょっとありましたよね。

やはりICTの機器を使うというのは、これから必須というか、非常に大変大事なことになるので、これは当然進めなきゃならないけれども、併せていじめをなくすであるとか、こういったことを合わせた指導をセットでやっていかないとということもありますので、今本市が進めていることを一層大事にさせていただきたいなということですよ。

あと、保護者のあれも出ているのか、自分もはっきりしないんですが、例えば、Wi-Fiの環境を整えるために機器を貸し出すということで、今回も大分増やしてということは補正の中でも考えていただいているようなんですね。これは当然いいと思うんですが、例えば、今回のような2週間当たりオンラインでやった場合に、通信料がかかりますよね、各家庭においては。この辺りは、いろいろどう対応していくのかなというようなことは、どれぐらいかかるかも自分ではよく分かっていないんですけど、こういうケースはこうだ、いろんなケース・バイ・ケースがあると思うんですが、この辺りは何かこういう情報があったら、また、教えていただけたらなというふうなことですよ。

1つ目に言いましたように、いろいろな経験を生かして、配信の仕方も、ライブであっ

たりオンデマンドであったり、いろんな組合せでもやっていけたりというようなこともちらっと出て、そういう内容だったと思うんですが、そういったことをぜひ、今後これをさらに有効に使えるようにしていただけたらなというふうに思いました。感想だとか、いろいろ質問も織り交ぜて言いましたので、情報としては、また、考え方として何かありましたら教えていただけたらと思います。

以上です。

○廣瀬教育長 では、教育支援課で通信状況。最初の状況とそれから改善をしていく取組、それからメディアリテラシーに関わることで町田市のような問題の回避とか現状とか、あと、Wi-Fiルーターの貸出しと、それに伴う貸し出していないところの通信料、その辺りの情報がありましたらお願いします。

○稲毛教育支援課長 教育支援課稲毛でございます。先ほど、学校教育課、指導課、人権・同和教育課長から報告がございましたオンライン学習の中で、当初は非常につながりにくいというお声があったことは事実です。8月23日に臨時の校長会で各校に指示を出しました。24日にそのやり方を伝え、8月30日、31日、個別登校のときにそれぞれのお子さんに各学校が説明をし、早い学校では、そのタイミングから接続テストをスタートしました。やっぱり30、31、1日辺りまでは非常に接続が難しい。

これは、学校がそれまでにどれぐらい準備をしてきたか、子どもたちに経験を積ませてきたかというところの差異もありますし、そういった点では、例えば、IDやパスワードの単純な入力ミスが多かったとか、今回ズームを使ったんですけれども、そもそもズームのシステムに教職員が熟知できていなかったということもございました。それ以外にもいろいろな小さなトラブルがあったために、その一つ一つに学校が戸惑った空気は最初の3日ぐらいありました。

その都度、入りやすい方法ですとか、それぞれ出てきた不具合の対処法も瞬時に情報共有させていただきまして、その週の金曜日、3日の日からは中学校では全校授業が開始されています。一部小学校と、それから、市内でも地域によってちょっとつながりにくい場所があったり、学校の通信環境というよりは御家庭の通信環境であったり、あるいは接続の時間帯の問題、様々な問題がございましたので、一概にこれが原因ということはありません。

ただ、2万3,000人のお子さんが一斉に同じ時間帯に授業に入る。そして、あの状況ですので、市内で在宅でお仕事されている方も同じような時間帯につながるということ

で、そういったところでアクセスが集中してというところがあるかとも思いますので、1つは、今後そういったネットワークの増強といいますか、学校と外をつなぐネットワークをもう少し増強していきたいと考えております。校内では問題なくつながっていますので、その辺りが改善点でございます。

それから、今、ズームのシステムを使っておりますけれども、本当につながりにくかった学校にはグーグルミートという別のシステムを、指導主事を派遣して設定から全て行って、そちらに移行して使い始めた学校も数校ございました。場合によって使い分けができるという手法は今後を考えると大事かなと思いますので、今後、グーグルミートを含むクラウドを活用して情報をやり取りする。ホームページだけではない部分で情報をやり取りできるシステムということで、全て9月から各学校に出前授業、全校を回って、次のこういった対応のときにもう一つ上の段階の対応ができるような形で研修を今始めておるところです。

ほかの研修とは違って、若手もベテランも同じ土俵で学べるので、学校として一緒にみんな学んでいこう、一緒につくっていこうという部分では、非常に意欲を見せていただいています。そういう意味では、若干差異はあるかもしれませんが、今回の件は非常に効果は大きかったというか、学校現場は進んだかなと思います。

先ほどのネットいじめの件につきましては、特にチャット機能が使われたということで、学校にはチャット機能の使い方を指示したり、または制限の仕方を伝えたりして、指導課のいじめ対応と一緒に、これからもう一度、徹底して周知していきます。

あと、Wi-Fiにつきましては、緊急時の貸出しということで、20ギガのWi-Fiを貸し出しました。後ほどまた申し上げますが、六百数十台貸し出しておりました。ただ、基本的に文部科学省は、Wi-Fiの通信料、それからタブレットの充電の電気代は御家庭で負担ということで、あくまでも貸し出すのであれば、Wi-Fiの機械は貸し出すというのが可能であるけれども、通信料は各自の御家庭の負担でという方針を出しておりますので、こういった非常時であるとか濃厚接触者の対応であるとか、そういったところには貸出しは可能だと思いますが、今後、タブレットの持ち帰り等が常態化してきた折には御家庭の負担ということで、そういった方面の方針を進めていきたいなどは考えております。

○廣瀬教育長 一旦、このやり取りで御質問等ありましたら。

○鈴木委員 うちも3人子どもたちが結局、タブレットとパソコンと、あと結局携帯で授

業を受けるという状況になりまして、そうすると、どうしてもタブレットがはじかれてしまっていて、それで、授業に最初は入れなくて、何遍か先生からもお電話いただいた上で、2回、3回と、こういうふうに対応してくださいとすぐ御連絡いただいたので、それをしてみたらつながったということで、結構早く対応していただいたなと思いました。

でも、やっぱりちょっと聞いてみると、中学校の子はばばっと言われたらできるんですけど、小学校低学年の子はできないもので、結局親がつきっきりでやって、どうしても入れないからということで、結局親のパソコンを使って入れてみたとか、親の携帯でというふうに、そういう話も聞いているので、こっちのタブレットの機能のせいなのか、それとも家庭の環境のせいなのか、学校にどうして行かないのかというのが、大分もやもやと保護者さんはあったように思います。

あと、オフラインとオンラインで授業をしてもらったりとかもしていたんですけど、中学校は一応オフライン、どうしてもつながらなかったら、今この授業をしているから、このページをやってくださいみたいなことを言ってもらっていたんですけど、ちょっと聞いた話では、小学校はそれはなくて、つながらなかったらつながらないで終わってしまったとか、そういうふうになっていたのでも、できれば授業風景を録画してもらったやつを、先ほど三滝中学校の例が挙がっていましたが、そういうふうにホームページに上げていただいて振り返りができるような、そういう形だと、保護者的にはありがたいなと思いました。やっぱり同時にはなかなか難しいのかなと思うんですけども。

オンラインの授業は、9月の間、2週間ぐらいしかしていないかもしれないんですけど、それでも一見見れなくなっちゃったら、子どもたちも集中が切れちゃうので、できれば残してもらって後で見ることができるような、これから、コロナもどうなっていくか、まだ分かりませんが、もし対応していただけるんだしたら、録画をしてもらって、その上で、今ホームページに上げたので、これを見てくださいとって保護者に言ってもらえたらありがたいなというふうに思いました。そこら辺をもし可能ならばしていただくとありがたいなと思います。また、もし不登校の子も今回参加できたって言うんですけども、授業風景とか先生の授業を後で振り返りながら聞くこともできるのであれば、またそこもプラスになるのかなというふうに思いました。そのくらいかな。すみません。

やっぱりオンライン、オフラインのときの対応をきちんとしていただけると、どうしても自宅なので子どもたちも、うちの娘なんか画面を上に向けたり、何やっているか分からないような状態で、大分緊張感がない状態をしている子もいると思うので、そういうとこ

ろではきちんと先生方に見ていただけないというのは、保護者としては非常に、言っても聞いてもらえないところがあるので厳しいところがありました。

以上です。

○**廣瀬教育長** まず、伊藤委員の最初の質問とも関係あるんですけど、5限で疲れる。最初は珍しいからやっていたけど、だんだんと集中できなくなるというようなところとも重なってくると思うんですけども、オフラインとオンラインの使い分けであるとか、そういったオンラインの配信の授業の在り方とか、そんなことについて、何か指導課か支援課でコメントがありましたらお願いします。

○**小林指導課長** やっぱりだんだん疲れてくる。特に低学年ほどやっぱりもたないと、そういうふうな意見があって、先生も慣れてくると、同じ1時間の中でも、オンラインにつながって授業をして、じゃ、今からこの問題をやってみましょうというので、1時間の中に15分説明があって、10分そういう作業を入れるとかの工夫はされるようになったと聞いております。

また、どうしても最初、つながらん場合は、今日の3限目はつながりにくいのでオフラインで、午後からつながりやすいとか、いろんな試行錯誤をする中であったんですね。5限目は必ず入って顔を見てというような、そんな対応もしていました。

指導課の中でオンライン学習、オフライン学習の集約というのを行ってございまして、実際11日ありましたので、5限で換算すると最大55時間になろうかなと思います。今集約した中で、小学校でいきますと、大体46時間がオンラインでオフラインが8時間ぐらいいかな、平均は。中学校はもうちょっと伸びて、48時間がオンラインでオフラインが6時間というような平均が出ております。ただ、学校によっては、オンとオフで、低学年はオフのほうが時間が多いとか、そういうような状況も出てきていますので、また、この辺りについては情報交換しながら、つながるような対策をしていくことが必要かなと思っております。

この期間中は、子どもたちが何%くらいオンラインにつながったかということや、それぞれ何時間授業したかという報告を毎日学校から上げていただいております。つながらなかった学校は、つながった学校にいろいろ情報を聞いたりしていただいておりますし、報告書の備考欄にもこんな状況だったというのを書いていただいておりますので、こちらから声をかけた学校も数校あります。そういう意味では、試行錯誤する中で2週間、これだけのことができてよかったなというような印象があります。

○廣瀬教育長 ほか、いかがでしょうか。

○豊田委員 2点ほどなんですけど、1つは、本学でもオンラインの授業をやっているんですけど、通常、大学なので90分授業なんですけど、90分もたないんですよ。学生によっては、例えばスマートフォンで見ているので、とても90分見てられないというので、授業短縮をしたりしているんですけど。45分で全部組んでもらってあるんですけど、オフラインを入れるから大丈夫なのかどうかという部分が、タブレットのところを1日見つめていると、肩こりとか、それから目がドライアイの傾向になる子とかというような身体的な症状のところも出るのかなと思うので、その辺りの配慮についてどうかというところ。

それから、御説明の中で、非常に接続が不安定なときに学校へ登校をというふうな御説明があったんですけど、子どもによっては、やっぱり通学距離もあつたりとか、その判断をどこでして、例えば、親御さんがいれば一緒にとか車で送ったりとかというものもあるかと思えますけど、そうじゃないときに不安定だというと、このメンテナンス、どういうふうにフォローアップをされていたのかなということ。

それから、動画配信で結構なものがいろいろ送れるとは思うんですけど、先ほど来言われている不安定ということになると、動画がこま送りになったりとか音声途切れたりとか、非常に見ている気分が悪くなるような状況が生じる可能性というのがあるんですけども、その辺りの対応はどうされたのかなという部分ですね。

それから、不登校の子がハードルが低くなって入れるようになったというのは好ましいことだと思うんですけど、例えば、それで顔を出したときに嫌にならないのかなという、教室に入ると一緒に、久しぶりにあの子の顔が見えたみたいな感じのところというのは、御本人にとっては抵抗なく入れてよかったというふうになるのかどうかという辺りを教えていただきたいと思います。

○廣瀬教育長 指導課からお願いします。

○小林指導課長 じゃ、私から。

オンとオフに関しましては、やっぱり試行錯誤の段階かなと思います。疲れるという話は多かったですね。ですので、保健の先生から、疲れるのでこういうような体操をなささいという便りを出したとか、そういう学校もございます。ですので、オン、オフに関しては、全てずっと動画で疲れてくるというような電話があったところは、ずっとオンでなくてもいいのというような指示をさせていただいたというのが現状でございます。

それと、やっぱり45分はえらいので40分ぐらいで、もう一コマ増やそうかなと思っておるというので、最終的にどうしたかは分からないんですが、朝がどうしてもつながらないので、朝はオフでスタートして、午後に2時間とかというような学校も聞いております。

あと、動画がこま送りになるということについて。私は小山田小を見学したんですが、小山田小は単学級だったので、つながりやすいと思うんです。また、パソコンに入っている内容そのものを動画で流そうとするとどうしても不安定になるようなところがあるんです。これは、コンピューターが苦手な先生が編み出した方法なんですけれども、パソコンの内容をプロジェクターで映して、児童の顔が映るのと同時にそれを黒板で映すと、容量が少なくなるんですかね。

○豊田委員 映るんです。それだと流れるんです、規格で。

○小林指導課長 それでやることで見せることができたとか、そういうようなお話もありました。ですので、動画もサイズがいろいろやとは思いますが、やっぱり重いというような工夫をしているというような状況はありました。ただ、これについては全体には下ろしておりません。

それから、不登校で顔を出すのが嫌やって、これは実際あります。ですので、不登校の中には入れる子もいたんですけど、このオンライン学習に参加できないという子は、それなりの数、調べてはないんですけれども。今度、9月の生徒指導報告の中でその辺の数字は拾おうと思うんですけれども、入れなかったという子はおりました。委員が言われるように、顔が出るというのはすごく抵抗がある。だから、オフにして見ておりゃええやんかというような話で、それで参加していたというような子もおりますが、それも嫌やという子もいたというのが現状でございます。

○豊田委員 あと、名前が出ますね。

○小林指導課長 出ます。

○豊田委員 それが嫌って思うかなって、なかなか教室に入れない子どもたちの中ではね。

○小林指導課長 そこの中の空間というんですか、画像の空間に一応、言われるように名前や顔が出ること自体にやっぱり抵抗があるというのは、実際に聞いております。

○廣瀬教育長 通学距離の件は。

○小林指導課長 それに関しましては、やっぱり低学年は来にくいような状況があるんですが、オンタイムで来なさいといっても、なかなか難しいです。中学校が意外とそれでは

きたみたいですが、入れやんのやったら学校へおいでというのは。小学校は、基本的に親の送り迎えが基本ですので、来るとなった場合は、それは次の日にとかというので、学校へ来てオンライン学習をするというのは、小学校はやっぱり急な対応に対するオンライン学習、学校でのというのは少ないというのが現実でございます。

○豊田委員 そうすると、例えば、中学生で御自分で移動できる子たちというのは、移動している間は授業が抜けるわけなんですけど、それはどこでフォローアップするんですか。

○小林指導課長 どこかというのは聞いていませんけれども、来れるのやったら早く来て授業を受けてというような形で、もちろんそんな中にその1時間は授業を受けられなかったということはあろうかと思えます。ただ、学校へ来てつながるようになって、いろんな操作をしてもらって、つながるから家に帰って行って、昼からは自宅で授業を受けますとか、そういうようなことはあったと聞いております。

全ての事例を拾って、何人いたというような調査まではしておりませんが、それぞれの学校でそういうような話があったと、オンライン学習をしてみているんなことが分かってきたというのが現状です。

○伊藤委員 関連して1つ。そもそも今は途中で駄目になった子やけれども、学校で預かりをお願いしますというタイプの子どももいますよね。四日市、前回のときもそうやけれども、学校へ子どもたちが来て学習するというのを対応したということも、それこそきめ細かくしていただいたと思うんですが、実際、学校へ来ると、学校はその子どもらへの対応も必要になってくるということは出てくるんでしょうけれども、結構な数があるんですか、これは。

○小林指導課長 これは、預かりの数ですよ。数は、全部毎日調べてあったんですけれども、前回の4月、去年の4月、5月と比べるとかなり少ないです。半分以下ぐらい。

○伊藤委員 そうですか。減ったということね。

○小林指導課長 減っている状況です。やっぱり自宅には1人であることができないというのは、小3までは見ることは可能ですということと、4年から6年生でも、つながらない。それから、どうしてもおうちにいることができない。それから、特別支援学級の子は学校で、保護者からの依頼があれば受けるというような形で対応しました。しかし、かなり少なかった。

○伊藤委員 それが減ったというのは何かあるんですか。前回というか、4月あたり、5月のときに結構な数がいたとか、学校によって大分違いがあるんだろうと思うんですけど。

○小林指導課長 学童からも、そのときに出てきてクラスターとか起こったら、何のためにやっているのか分からないので、できるだけ御自宅でというような通知を出してもらったということも1つあるのかなと思います。学校も、できるだけというような形でお願いしたという依頼の結果だと思います。

○伊藤委員 その対応で学校も困るという、そういうことはあまり起こっていないということですか。

○小林指導課長 今のところそういうような話はありませんね。ただ、我々としては、そうやってたくさんの子が来て、クラスで一緒にやっておると、先生も集中できないので、別の部屋というので、電話がかかってきて依頼はしたんですが、私、実際に見に行った小山田小の中では、単級ですのではかの部屋というのが、先生が足らんというので、何人かは一緒に入って勉強しておるといふ。学校によっては、そういう学校もあるというのが現状ですね。

○廣瀬教育長 基本的には、前回の4月、5月は、自主学習の対応だったので、別建ての先生の対応が必要。もちろん教室には教員がいけないんですけど、オンライン学習を学校で受けるみたいな形にすると、配信1回で、家で勉強するか学校で勉強するか、どちらかの選択肢という形で、前回ほど2つやらなくていいというようなことになったのかな。

これを企画するとき、分散登校とオンラインの併用にしようかということも考えたんですけど、それだと担任の負担がすごく大きいと。授業をしながら配信もして、全部やらないかん。先ほど紹介していただいたとおり、チームでカメラを撮る係とかモニターを見ておる係とか、3人組でやっていた学校なんかがあって、チームで配信することで、お互いの負担とか教材準備とかの負担は軽減されることはできたのかなというふうなことはあって、一定うまくやれたところ。例えば、橋北中は今日、中間テストをするんですけど、容赦なく、オンライン授業で授業数を確保できた判断してのことやと思いますけど、そういう先進的に去年からICT推進校として取り組んでおるところは、自信たっぷりにやれたという。接続状況も学校の規模もいろいろな条件でよかったんだと思いますけれども、今回のことで、メリット、デメリット、かなり集約できたのかな。つながりにくい原因は、なかなか特定できないんですけど、今後第6波の対応については、準備はしていかないといけないなということでございます。

数馬委員、何かよろしかったですか。

○数馬委員 私は、感想としまして、とても大変な、コロナというところは大変な状況なんですけど、それをプラスに持っていけるような仕組みとか方法とか、既にそれを学校の現場と御家庭とで進行形で1つあるということが感動的だなというふうに思っていました。すぐ感動しちゃうんですけど。

なかなかできないことを、普通の状態だとできないようなことが、今は実際行われているって、それはきっと子どもさんが伸びていく、教育を受けているということ、自分たちが何で学んでいるかということ、いろいろな形で肌で感じていけるような状況が行われているんじゃないかなって、トラブルも含めてのことなんですけど。とってもいい経験になることを、皆さんの御努力でしていただいているんだなというふうにお話を聞いておりました。

○廣瀬教育長 そのほか、御質問はよろしいでしょうか。

オンラインでやりましたので、人との関わりというのは当然薄くなっているというのは、今後、この3週間、夏休みからいうと2か月人と会っていないコロナの状況で、友達と遊びに行っていないという状況がある中で、今後の学校再開後の回復については、できるだけ学校行事は止めないでくれということで現場には指示はしてあります。どんな形でもいいので、前からあった行事の意義や目的をしっかりと捉えたものはやってくれと。

そのために、残念ですが、中体連の新人大会は、学校行事とか学校運営を圧迫するので中止にさせてもらったという経緯はありますけれども、その意図としては、修学旅行、体育祭、文化祭、ある行事ができるだけやっていると、簡単にやめるという選択肢じゃなくて、これからも子どもたち同士の関わりや自分たちで考えたことを実行していく、そういった機会を保障していきたいと思っておりますので、また今後とも折に触れて報告をさせていただきますと思います。

それでは、この項は終わらせていただきます。よろしいでしょうか。

2 令和3年8月定例会議会補正予算（追加上程）について

○廣瀬教育長 それでは、報告2番目です。

それでは、さきにお諮りした非公開の案件に入ります。

傍聴の方はいらっしゃいませんね。